



令和3（2021）年度 第12期 とちぎの教育未来塾

第4日〔令和3（2021）年12月11日（土）〕

第12期生 135名



【選択講座A】幼児教育に関すること「学びの基礎を培う幼児教育」
栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹 高根沢伸友



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆ 幼児教育は全ての教育の基礎を培っているところであることを再確認しました。また、子どもたちが主体的になれる、ワクワクする環境をつくることも必要であることを学ぶことができました。
- ◆ 幼稚園や保育園、こども園で子どもたちが身につけてきたことを発揮できるような環境づくりをしたいと思いました。子どもたちの能力や可能性を信じ、様々なことに挑戦させたいです。授業においては、子どもたちのやってみたい、知りたいという気持ちを高められるような導入や発問ができるよう心がけていきます。

【選択講座A】道徳教育に関すること「道徳科のいろは」
栃木県総合教育センター研究調査部副主幹 佐藤裕美子



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆ 道徳教育は道徳の授業に関わらず、日頃の声かけなど教育活動全体を通して行うものだとすることを改めて理解することができました。実際の様々な場面で、より良い行動ができるような声かけを行い、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことのできる、そんな指導を目指したいです。

【学生等】

- ◆ 私自身、教育実習で小学校、中学校共に道徳の授業を経験し、難しさを痛感したところでした。ただ授業をするのではなく、何を身につけさせたいかという目的を教師自身が持つておくことやクラスの実態に合わせた発問を意識して考えることができるようにしたいと考えました。

【選択講座A】 特別支援教育に関すること「通常の学級における特別支援教育」
栃木県総合教育センター教育相談部指導主事 揖斐 俊博



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆特別ではない特別支援教育という最後の言葉がいちばん印象に残りました。実際の現場では全体一括りにしがちですが、この講話を思い出しながら学級経営に活かしたいと思います。

【学生等】

- ◆本講座を受け、障害の名前や診断名で支援の方法を工夫するのではなく、その児童生徒のニーズに合わせる大切だと学びました。教師は、児童生徒を理解しようとする姿勢を持ち、観察や行動の背景に目を向けなければいけないと思います。また、教師になった際には、児童生徒に「フェンス」を作らせないような指導が求められると感じました。

【選択講座B】 情報教育（ICT）に関すること「小学校におけるプログラミング教育」
栃木県総合教育センター研究調査部指導主事 福田 智貴



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆プログラミング教育の意義や指導法について、実践形式で学ぶことができました。紹介頂いたクロームミュージックラボを活用して授業を行いました。自分で音を作れるのが楽しいと児童から好評でした。今後も、効果的な ICT 活用の方法を模索していきたいです。

【学生等】

- ◆プログラミングという言葉聞いたときに、難しそう、できればやりたくないと思い、今回受講しました。実際にやってみると、さまざまな発見があり面白かったです。小学生の興味を惹きつけることができると思いました。しかし、プログラミングを学ぶことが目的ではないということを知り、教科の学習と上手く結びつけてプログラミングを扱うことが必要であると思いました。

【選択講座B】教育相談に関すること「子どもとのかかわり」

栃木県総合教育センター教育相談部指導主事 澁谷 景子



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆子どもの抱える悩みや問題を、直接聞き出すのではなく、質問などを活用して子どもから引き出す難しさを感じました。ロールプレイングで、指定された条件から、問題を予測し質問を工夫する活動では特にそれを感じました。しかし会話する上で必要なポイントをおさえることができたので、今後活かしていきたいです。

【学生等】

- ◆話を聞くときの基本的な心構えを身につけることができました。児童生徒の話を聞き、分かろうとすることは難しいことですが、教師・生徒間での信頼関係を築いていくために積極的にかかわりをもちたいです。

【選択講座B】学校、地域、家庭(保護者)に関すること

「子どもの学びを支える学校と地域の連携」

栃木県総合教育センター生涯学習部副主幹 田辺 剛



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆これからの学校、教育では校内だけでなく、地域社会の力を借りながら共に子どもたちを育てていくことが大切であることを強く感じました。学校は地域から大切な子どもを預かっているので、その子どもたちが様々な経験や体験ができるよう、まずは我々教職員が地域を理解しようとし、門戸を広く開け、情報交換であったり情報開示をしたりすることで、子どもたちが地域で受け入れてもらいやすくなるような環境を設定していく必要性も感じました。

【学生等】

- ◆地域との連携が、学校や子どもたちに良い影響をもたらすことを知り驚きました。子どもの地域愛や学校では学べないことなどを学ぶ上で保護者の方ももちろん、地域の方々に助けていただくという視点はとても大事になることが分かりました。